

農林水産大臣賞

あすはしり
明日の走井を考える会（滋賀県栗東市）



〈収穫祭（餅つき）〉



〈紫陽花ロード〉



〈農業体験イベント風景〉

【概要】

（１）むらづくりの動機・背景

走井地区では、高齢化、過疎化が進み、人口が激減していることにより、清掃活動や農地の維持等が困難な状況となっていた。また、集落に活気が無くなり、団結力が失われつつあり、集落の存続について危機感を持たれていた。そんな集落の将来を危惧した4名が中心となり、新たなことにチャレンジし、立ち向かう組織として「明日の走井を考える会」を平成28年3月に結成、集落の活性化につながる取り組みが始まった。

（２）むらづくりの内容

「明日の走井を考える会」は、集落の存続を目的として発足、参加者の要件は設けず、様々な人を受け入れ、自由な発想で新しいアイデアを取り入れることに寛容な、集落が一体となって活動している。

条件の不利な地域で、遊休農地を復活させて稲作を再開、生産性の向上を図り地元産「こんぜ清流米」のPR活動を実施、販売の促進に努めているほか、農業体験や収穫祭を開催、都市住民等と交流等が図られ、集落の活性化に繋がっている。

今後は、企業等も参加し、様々なアイデアを盛り込んで開催することが企画されており、こうした活動や話し合いを通じて地域内のコミュニティが盛んになることで、集落の雰囲気明るくなってきている。

観光農園についてもPRを行うことで、顧客の拡大に向けて取り組みを進めているほか、集落住民が日常生活で利用する道路の路肩部に紫陽花を植栽し、「紫陽花ロード」として整備、維持管理や植栽範囲を順次広げる活動が行われている。

また、紫陽花ロードに隣接した耕作放棄地を復田し、道行く人々が美しい田んぼの景色の移り変わりが見られるようになった。

金勝地域の棚田が棚田地域振興法の棚田指定を受け、棚田地域協議会が金勝地域全体で設立されたことから、今後「会」の活動が地域全体に広がっていくことが期待される。